

確認問題

7子どもの保健 ①子どもの健康と保健の意義

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 保育所保育指針 第2章「保育の内容」の「1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容」の「健康」の「ねらい」には、「明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ」がある。
- 2 新生児期とは出生後1週（7日）未満である。
- 3 死亡率とは、人口1,000に対して1年間で死亡した人数である。
- 4 合計特殊出生率は、2005（平成17）年に過去最低の1.50を記録した。
- 5 虐待の親側のリスク要因に、「産後うつ」がある。

解答

- 1 ○
- 2 × 出生後4週（28日）未満である。
- 3 ○
- 4 × 1.50ではなく、1.26である。
- 5 ○

確認問題

7子どもの保健 ②子どもの発育・発達と保健

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 発育（成長）とは、身長や体重等のようにはかりや物差しで計量できる伸びのことをいう。
- 2 生理的体重減少とは、生後7日以降の新生児にみられる一過性の体重減少である。
- 3 乳児の身長は、1歳で約1.5倍、3歳で約2倍になる。
- 4 乳幼児身体発育値（パーセンタイル値）とは、集団の中で大きいほうから数えて何%めに該当するかを示す値である。
- 5 乳幼児の身体バランス、栄養状態をみるために用いられるのがカウプ指数である。

解答

- 1 ○
- 2 × 生後7日以降ではなく、3～4日頃である。
- 3 × 4歳で約2倍になる。
- 4 × 大きいほうではなく、小さいほうから数える。
- 5 ○

確認問題

7子どもの保健 ③生理機能・身体機能の発達

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 乳児が1日に必要とする水分摂取量は、成人の約2.5～3倍である。
- 2 脈拍、呼吸数ともに乳児より幼児のほうが多くなる。
- 3 小泉門は脱水症、髄膜炎や脳腫瘍等の病気の診断に役立つ。
- 4 1型糖尿病（若年型糖尿病）は、子どものうちに発症することが多い。
- 5 赤血球は、生体の免疫や防御反応に関与する。

解答

- 1 ○
- 2 × 乳児のほうが多くなる。
- 3 × 記述は大泉門の説明である。
- 4 ○
- 5 × 赤血球ではなく、白血球である。

確認問題

7子どもの保健 ④運動機能・精神の発達

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 バビンスキー反射は、生後3か月で消失する。
- 2 原始反射の表出の仕方、消失の時期で発達の障害の診断はできない。
- 3 運動機能の発達順序は、首すわり→寝返り→ハイハイ→おすわり→つかまり立ち→伝い歩き→ひとり歩きの順である。
- 4 歩行ができるようになるのは、12～14か月である。
- 5 三語文以上の文章を話せるのは、4歳である。
- 6 動きの洗練化とは、年齢とともに合理的な動きができるようになることである。

解答

- 1 × 生後6か月～2歳で消失する。
- 2 × 診断できることがある。
- 3 × おすわり→ハイハイである。
- 4 ○
- 5 × 4歳ではなく、3歳である。
- 6 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑤子どもの疾患と適切な対応

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 乳幼児の平熱は大人より高いので、おおむね37℃を超えた場合に発熱と考える。
- 2 子どもの発熱原因には大きく分けて熱中症と感染症の2種類があると考えられる。
- 3 口の中に嘔吐物が残っていれば、見えているものを丁寧に取りのぞき、うがいのできる子はうがいをさせてきれいにする。
- 4 下痢のときは、食事の量を少なめにし、乳製品を与え、消化吸収のよいでんぷん質を中心とした食事にする。
- 5 咳のときには横向きの姿勢をとらせ、背中をさすったり、タッピング（背中をたたく）を行う。

解答

- 1 × 37℃ではなく、38℃である。
- 2 ○
- 3 ○
- 4 × 乳製品は控える。
- 5 × 横向きではなく、前かがみである。

確認問題

7 子どもの保健 ⑥感染症の予防と対策

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 ヒトの体内に病原体が侵入するだけで、発症しない状態を顕性感染という。
- 2 宿主がその病原体に対して感受性があると、感染が成立する。
- 3 感染症が発生するためには、病原体、感染経路、感受性（感染を受ける可能性）が存在することが必要である。
- 4 母子免疫が生後1年くらいすると減りはじめるので、感染症にかかりやすい。
- 5 乳幼児は、成人と比べると鼻道や後鼻孔が狭く、気道も細いため、風邪等で粘膜が腫れると呼吸困難になりやすい。
- 6 飛沫感染で飛沫が飛び散る範囲は2～3mである。
- 7 「解熱した後3日を経過するまで」とは、解熱した日を入れて3日間である。
- 8 麻疹（はしか）の出席停止の期間の基準は、発疹が消失するまでである。
- 9 水痘（水ぼうそう）の出席停止の期間の基準は、すべての発疹が痂皮化するまでである。

解答

- 1 × 顕性感染ではなく、不顕性感染である。
- 2 ○
- 3 ○
- 4 × 生後1年くらいではなく、数か月後である。
- 5 ○
- 6 × 1～2mである。
- 7 × 解熱した日を含めずに3日間である。
- 8 × 発疹が消失するまでではなく、解熱した後3日を経過するまでである。
- 9 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑦主な感染症

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 麻疹（はしか）、風疹（三日ばしか）ともに発疹は色素沈着を残すことが特徴である。
- 2 風疹は、妊娠初期に感染すると、胎児に白内障、難聴、先天性心疾患等を患うことがある。
- 3 突発性発疹は、ヒトヘルペスウイルスによって起こり、解熱するとともに紅斑が出現し、熱性けいれんをともなうことがある。
- 4 水痘（水ぼうそう）は、アデノウイルスによって発症する。
- 5 伝染性紅斑（リンゴ病）は、コクサッキーウイルスによって起こり、軽い風邪症状の後、頬の左右に紅斑、手足に網目状、レース状の発疹が出現する。
- 6 伝染性軟属腫（水いぼ）はプールの水では感染しないため、プールに入っても構わない。

解答

- 1 × 風疹の発疹は、色素沈着を残さない。
- 2 ○
- 3 ○
- 4 × アデノウイルスではなく、水痘・帯状疱疹ウイルスである。
- 5 × ヒトパルボウイルスによって起こる。
- 6 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑧感染症以外の子どもの疾患

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 食中毒を予防するための3原則は、つけない、ひろげない、やっつけるである。
- 2 食物アレルギーは特定の食物を摂取した後に皮膚、呼吸器、消化器あるいは全身に生じる症状のことをいう。
- 3 季節性アレルギー性鼻炎の原因は、ハウスダストやダニ等である。
- 4 ダウン症とは、18番の染色体が3本あることが原因となる、染色体異常である。
- 5 子どものうつ病の症状は、食欲減退、活動量の減少、イライラや不満等がみられる。

解答

- 1 × ひろげないではなく、増やさないである。
- 2 ○
- 3 × スギ、ブタクサ等の花粉である。
- 4 × 18番ではなく、21番染色体である。
- 5 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑨予防接種

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 わが国の予防接種の制度は、予防接種法に基づき市区町村が実施する定期接種と、対象者個人の希望により行う自由接種がある。
- 2 不活化ワクチンは、病原性を失わせた病原体を生きのまま接種できるようにしたものである。
- 3 予防接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがある者は、予防接種不適合者である。
- 4 ロタウイルスのワクチンは、令和2年10月から定期接種化された。
- 5 MRワクチンは水痘（水ぼうそう）と風疹を予防するワクチンである。

解答

- 1 × 自由接種ではなく、任意接種である。
- 2 × 記述は生ワクチンの説明である。
- 3 ○
- 4 ○
- 5 × 水痘ではなく、麻疹である。

確認問題

7 子どもの保健 ⑩子どもの保健と環境

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 保育室内の室温は夏期26～28℃、冬期20～23℃、湿度は約40%を保つ。
- 2 感染症が流行しているときには、保育室は2時間に1回以上の換気を行う。
- 3 乳児期の睡眠のサイクルは、生後すぐは多相性で2歳頃には二相性にほぼ落ち着き、その後は徐々に単相性になる。
- 4 乳児の衣服はハイハイを始める頃からは動きが活発になるので、大人より1枚多めに着せることが目安である。
- 5 むし歯は、口腔内のミュータンス菌が歯垢内で糖質からアルカリを生産することで発症する。
- 6 アルコール消毒薬が効きにくい病原体はノロウイルス、ロタウイルス等である。

解答

- 1 × 湿度は約40%ではなく、約60%を保つ。
- 2 × 正しくは、1時間に1回以上である。
- 3 ○
- 4 × 大人より衣服は1枚少なめである。
- 5 × アルカリではなく、酸である。
- 6 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑪事故と安全対策

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 2020（令和2）年の人口動態統計では、欧米諸国と比較して「不慮の事故」の割合が高い。
- 2 2020（令和2）年の子どもの不慮の事故の内訳で、1～4歳の第1位は溺死・溺水である。
- 3 溺死・溺水は、0歳では浴槽内が多く、年齢が高くなるほど川等の自然水域が多くなる傾向にある。
- 4 乳児の昼寝は、窒息の予防のため、やわらかい敷布団を使用し仰向けに寝かせることが推奨されている。
- 5 保育所における事故は、園庭で最も多く発生している。
- 6 児童福祉施設では、災害発生に備え、避難訓練計画や災害時のマニュアル作成、職員の役割分担、避難訓練の実施等が求められる。

解答

- 1 ○
- 2 × 溺死・溺水ではなく、窒息である。
- 3 ○
- 4 × やわらかい敷布団は使用しない。
- 5 × 園庭ではなく、保育室である。
- 6 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑫救急処置

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 一次救命処置とは、心肺蘇生、人工呼吸、気道異物除去の3つの処置のことである。
- 2 小児の胸骨圧迫は胸の厚さの約1/5である。
- 3 気道異物除去は、乳児に対しては背部叩打法と胸部突き上げ法を用い、小児または成人には腹部突き上げ法（ハイムリック法）を用いる。
- 4 乳幼児の誤飲事故は、医薬品・医薬部外品が最も多い。
- 5 熱中症を疑う症状には熱失神、熱けいれん、熱疲労がある。
- 6 子どもがやけどをしたときに衣服を着ている場合は、脱がして冷やす。
- 7 子どもが転倒・転落、交通事故等で頭を打った場合は、とりあえず安静にし、全身状態を観察する。

解答

- 1 × 人工呼吸ではなく、AEDを使った除細動である。
- 2 × 約1/5ではなく約1/3である。
- 3 ○
- 4 × 医薬品・医薬部外品ではなく、タバコである。
- 5 ○
- 6 × 脱がさないでそのまま冷やす。
- 7 ○

確認問題

7子どもの保健 ⑬母子保健サービス

次の記述のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけなさい。

- 1 健やか親子21（第2次）の基盤となる課題には、「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」がある。
- 2 新生児マス・スクリーニング検査は生後1か月児を対象とする検査である。
- 3 先天性甲状腺機能低下症（クレチン症）は先天性代謝異常症である。
- 4 母子健康手帳の交付、1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査の実施が市町村に義務づけられている。
- 5 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）は、生後6か月までの乳児がいる全家庭を訪問する事業である。

解答

- 1 ○
- 2 × 生後1か月児ではなく、4～6日の新生児である。
- 3 × 先天性代謝異常症ではなく、先天性内分泌疾患である。
- 4 ○
- 5 × 生後6か月ではなく、4か月までの乳児である。